トランジション・マネジメント手法の初動に関する研究
－金沢市大野・金石を対象として－

徳島大学　賛助会員　○山本健太・多田羅祐太
徳島大学大学院　正会員　山中英生

１．はじめに

都市の抱える問題として，気候変動といったマクロレベルの問題から，ローカルレベルの都市再生といった課題まで，多くの複雑な問題を抱えている．このような地球温暖化問題，高齢化問題など，大規模な社会課題の解決に向けて市民活動家などによる草の根レベルでの多くの取り組みが進められているが，既得権を有するステークホルダーの反対などから，根本的な社会問題の解決に目で見える形で繋がる例は少ない．

持続可能な未来社会を目指すためには，ステークホルダーの合意形成を目指す方法ではなく，社会問題を構造的に転換可能な方法が必要であり，変革の対象者が参加可能な民主的な方法論を実施することが重要である．このような根強い問題を乗り越えて社会を変革させていく方法論として，トランジション・マネジメント（TM）という手法が着目されている．この手法はオランダ発祥の方法論で，実現したい未来から逆算して，社会未来を構築するため、フロントランナーたちの挑戦的な取り組みを小規模ながら実践することにより，ボトムアップで構造転換を促すものである[1)].

２．本研究の目的と方法

本研究では，金沢市大野・金石地区を対象としてトランジション・マネジメント初動のための調査を行い，その適用性を明らかにすることを目的とした．

大野地区から 13 名，金石地区から 10 名と 1 つの組織にヒアリングして，まちづくりを行うにあたり重要なコーディネータの発掘と、ヒアリングで聴取した言述をもとに課題とビジョンを明らかにした．次に大野地区ではヒアリング調査で得た課題とビジョンを報告し，課題解決とビジョンの達成のために向けて何ができるか，筆者がファシリテータとなり，意見交換会を行った．金石地区に関しては，調査報告書を作成し，課題とビジョンを報告した．そして，報告後にアンケート調査を行い，思考の変化を分析することでトランジション・マネジメントの適用性を分析した．

３．雪だるま式サンプリングによるフロントランナーの発掘

まず，２地区で活動している金沢市まちのり（サイクルシェア）の担当者から紹介された人物，さらに大野地区で宿泊施設の経営者を始まりとしてヒアリングを実施し，各人に対して他に話を聞くべき人を紹介してもらう「雪だるま式ヒアリング調査」を適用した．この結果，大野地区では，回数を追うごとに新規出現回数が減少し，既出者の割合が増加して，徐々に紹介されたことのある人物が増え，集団が収束する傾向が見られた．紹介された計 21 名の内，11 名が外部出身の方であり，多くの外部出身者が関与していることも分かった．一方，金石地区では回数を追うごとに新規の人物の紹介が減少し，既出者の割合が増加した．ただし，特定の人が複数回紹介される傾向は見られず，集団が収束する傾向も確認できなかった．紹介された計 13 名と 1 つの組織の内，外部出身者は２名のみで，外部者の関与度が低いことが分かった．大野地区で複数回紹介されている人物は，地区においてコーディネータの役割を担っていることが確認できた．

４．Ｘカーブ図による課題とビジョンの整理

ヒアリング実施者の言述をもとにＸカーブ図を作成し，課題とビジョンを整理した．大野地区の課題に関しては，「昭和後期頃～平成中期頃」と「平成後期頃～現在」に分けて整理を行った．まず大野地区の「昭和後期頃～平成中期頃」において共通して多く話されていた課題は，「蔵と町家の遊休化が拡大した」や「イベント時の告知や周知が大変だった」ことが挙げられた．「平成後期頃～現在」において共通して多く話されていた課題は，組織について「今後リーダーとして引っ張っていく人がいない」，「内部の人はまち

の良さに気づきにくい」，「町家の空き家情報が公開されていない」ことが挙げられた．共通して多く話されたビジョンに関しては，「次世代が大野の文化に触れて受け継いでいる」，「古い町並み・蔵や町家を活かしたまちづくりを行っている 」，イベントに関して「形を変えながらも継続して行われている」などが挙げられた．続いて，金石地区で共通して多く話されていた課題は，「若者が地元から離れて帰郷しない」，「外部の人から閉塞的なイメージを持たれている」，「歴史物の良さが伝わっていない」ことが挙げられた．共通して多く話されたビジョンとしては，「古いまち並みが残っている」，「地域の輪が広がっている」ことが挙げられた．その他は「金石の食文化が受け継がれている」，「スポーツのまちとして繁栄している」など各々がビジョンを持っていることが明らかになった．

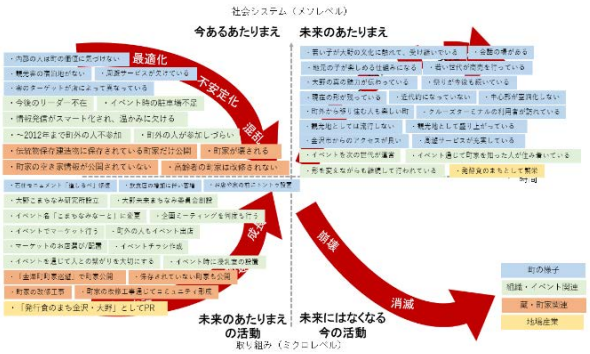

図１　大野 X カーブ図

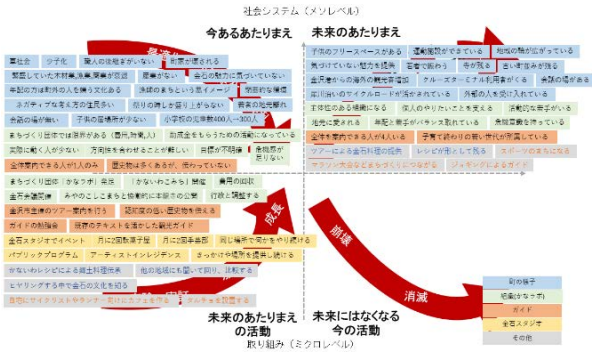

図２　金石 X カーブ図

５．トランジション・マネジメントの適用結果の分析

トランジション・マネジメントの適用性を分析するために，ヒアリング実施者にアンケートを行った．ヒアリングをもとに整理した課題とビジョンを共有することで，どのような意識変化が生じるか整理した．学習効果や課題，ビジョンに関する質問について，大野・金石地区ともに９人の回答結果を用いた．

「新たな学習の有無」では新たな発見や学習を得ることが出来た人が過半数以上で見られた。一定の学習効果を得ることができたといえる．大野地区では８割近くの人，金石地区では全員が未来に向けて行動することで，持続可能な魅力あるまちに変えることができると思うようになったと回答しており，「まちの変化への確信」が確認できている．また，「課題とビジョン」についてヒアリングで共通して多く話されていたものを提示して確認したが，大野地区ではビジョンは広く共有されていた一方，課題については一部の項目で共有は低いレベルであることが明らかになった．一方で、金石地区ではビジョンについての共有が低いが，課題については回答者に比較的共有されていることが確認できた

「行動の有無」に関して，大野地区では９割近くの人，金石地区では８割近くの人がビジョン達成のために活動をしたことがあると回答しており，各々がビジョン達成のために取り組んでいることが確認できた．加えて、「行動意向」に関しても，大野地区では７割近くの人，金石地区では９割近くの人が「現在行っている活動を継続的に行いたい」，「コミュニティを広げたい」などのビジョンを達成するために行動したいと考えていることが確認できた．以上の点から，トランジション・マネジメントの適用性を確認した．

６．今後の取り組みに関する提案

大野地区では，ビジョンに向けて何ができるか明確にするためにビジョンを絵にまとめることが提案される。また、コーディネータとしての役割を担っていた元大学講師 A さんの後継者の発掘、育成についても検討の必要がある．一方、金石地区では，内部で生活している人では気づけていない魅力や価値を発見するために外部の視点を取り入れること，ビジョンや課題を共有するために外部の視点も取り入れた会合を定期的に開催することが提案される．

謝辞：本研究は科学研究費補助金基盤研究Ｂ（20H02278）の一環として実施した．

参考文献　1)松浦正浩：トランジション・マネジメントによる環境構造転換の考え方と方法論，環境情報科学，46(4)，pp. 17-22，2017 年